

自然共生サイト・OECMに登録された「おおはし里の杜」における生物多様性の取り組みについて

首都高速道路株式会社

1 はじめに

首都高速道路(株)が管理する「おおはし里の杜」が2024年3月に高速道路会社として初めて環境省の「自然共生サイト」に登録され、同年8月には国連環境計画世界自然保全モニタリングセンター（UNEP-WCMC）及び国際自然保護連合（IUCN）が運営する国際データベースにOECM（Other effective area-based conservation measures）として登録されました。OECMとは「国立公園などの保護区域ではない地域のうち、生物多様性の保全に資する地域のこと」で、日本では自然共生サイトとして認定された区域のうち、保護地域との重複を除いた区域がOECMとして国際データベースに登録されます。

また、2021年6月のG7サミットにおいて合意した「30by30（サーティ・バイ・サーティ）目標（2030年までに国土30%以上を自然環境エリアとして保全する世界目標）」の達成状況は、この国際データベースに基づいて評価される予定となっており、OECMとしての登録により世界目標の達成に寄与することができます。

本稿では、首都高速道路の換気所屋上という特殊空間に整備された「おおはし里の杜」の概要と取り組みを紹介します。



【OECM 認定ロゴマーク】



【おおはし里の杜】

2 「おおはし里の杜」の概要

「おおはし里の杜」は生物多様性保全等の観点から、環境に関する社会のニーズを踏まえ計画された約900㎡の広さを持つ自然再生緑地です。

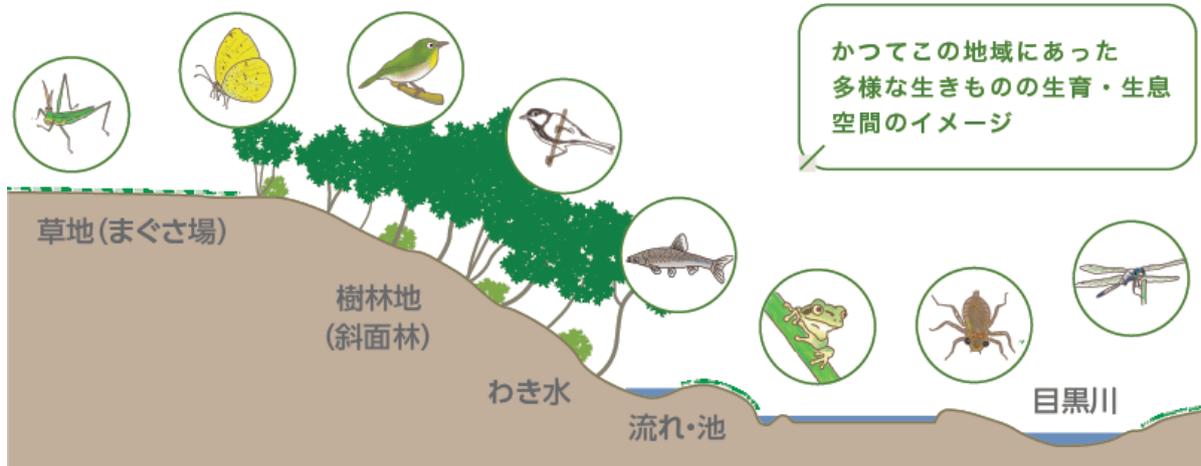
首都高速3号渋谷線と中央環状線をつなぐ大橋ジャンクションと一体となって建設された高速道路換気所の屋上に2011年に整備され、2013年に緑化が完了しました。

自然再生緑地の整備にあたり、人と自然とのかかわりが豊かであったかつての目黒川周辺の前風景に基づく植栽景観を再生し、多様な生きものの生育・生息・繁殖のための空間を創出す



【大橋ジャンクション】

ることを目標としました。「おおはし里の杜」は「生きもの中心の緑地」を維持するため、また換気所という高速道路重要施設の屋上に位置していることも踏まえ、通常、人の立ち入りを制限し管理しています。このような生態系保全への積極的な取り組みにより、2011年度調査で約80種であった動物が2023年度調査では約200種確認されており、整備時から現在に至るまで多種多様な生きものの生息環境を維持しています。



【カルガモ】

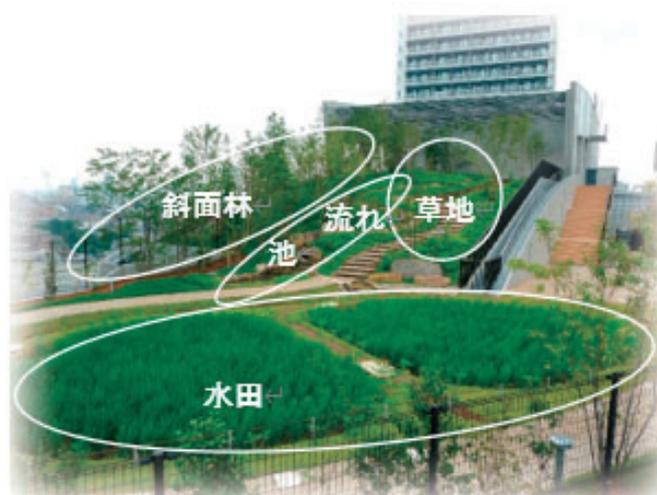


【オミナエシと蜂】



【シオカラトンボ】

また、換気所の最上階はトンネル換気のための風洞であるため、風の整流を考慮した勾配があり、建物屋上に斜面を形成させる構造となっています。この形状を、昭和初期の目黒川沿いに存在した谷部と段丘に見立て、谷部には水田等の湿地、段丘には茅等の草地、段丘崖には斜面林や湧水地、小川のせせらぎを再現しました。



3 生物多様性の保全状況について

「おおはし里の杜」では、2019年度からオオタカが飛来しており、2021年度以降は捕食場所として利用していることを確認しています。これは、「おおはし里の杜」がオオタカの生活圏の一部に組み込まれていることを示唆し、都市部の緑地をつなぐエコロジカル・ネットワークの形成に寄与していることが分かっています。

また、環境省レッドリストや東京都レッドリストに掲載されている希少種も確認されています。直近3年(2021～2023年度)においては、13種の希少種が確認されており、緑地整備完了後の維持管理段階で新たに確認され始めた種が多くを占めています。



【飛来したオオタカ】

分類群	種名	確認年度			環境省RL※1	東京都RL※2
		2021年度	2022年度	2023年度		
鳥類	オオタカ	●	●	●	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧 I B類 (EN)
	チョウゲンボウ	●	●	●	—	絶滅危惧 I B類 (EN)
	ハヤブサ	—	—	●	絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅危惧 I B類 (EN)
	コサギ	—	●	—	—	絶滅危惧 II 類 (VU)
	ダイサギ	—	—	●	—	準絶滅危惧 (NT)
	モズ	—	●	●	—	絶滅危惧 I A類 (CR)
	イソヒヨドリ	●	●	●	—	準絶滅危惧 (NT)
	クロジ	—	●	●	—	準絶滅危惧 (NT)
魚類	ミナメダカ	●	●	●	絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅危惧 I A類 (CR)
貝類	モノアラガイ	●	●	●	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
昆虫類	モノサシトンボ	—	●	—	—	準絶滅危惧 (NT)
	オオチャバネセセリ	●	—	—	—	絶滅危惧 I A類 (CR)
	モンズメバチ	●	●	—	情報不足 (DD)	—

※1「環境省レッドリスト2020」

※2「東京都レッドデータブック（本土部）2023」

4 地域社会との共生活動

通常、閉鎖管理を行っていますが、地域社会との共生の観点から、社員の立ち会いのもとでイベント等を実施し、多くの方々に生物多様性を体感いただける場所として活用しています。

水田では、田植え・自然観察・稲刈り・脱穀等をテーマに計4回の「稲作体験学習」を近隣の小学生の教育活動の一貫として実施しており、専門家の指導により、昔ながらの農作業が体験できる工夫を行っています。また、目黒区教育委員会主催イベントなどの環境教育の場としての活用その他、年数回の一般公開の実施などを通じ、地域社会に向けた取り組みのPRも行っています。



【稲作体験の様子】



【一般公開の様子】

5 おわりに

今回、当社が管理する「おおはし里の杜」が自然共生サイト及び OECM として登録・評価されたのは、当社だけではなく、地域の皆様や関係自治体など様々な関係者が、大橋ジャンクション建設計画時から今日に至るまで、環境負担軽減や地域社会共生に向けて真摯に向き合ってきた結果だと考えます。

今後は、都市部にある高速道路の換気所屋上という特殊空間にある自然再生緑地「おおはし里の杜」の取り組みを国内外に広く発信することで、都市緑化や生物多様性の保全の重要性、ネイチャーポジティブ実現に向けた「30by30」の理念が広まるきっかけになることを願います。

また、引き続き「おおはし里の杜」では「生きもの中心の緑地」として生物多様性の保全や維持管理活動を実施し、エコロジカル・ネットワークの形成に寄与することで、都市部の生物多様性保全に貢献してまいります。